

# ご本尊・蓮如上人 宮殿 修復完工

本年二月七日から榊仏壇の古屋鋪に尊前（ご本尊）と御台前（蓮如上人）の宮殿修復をお願いしておりましたが、四月二十日修復が終り、本堂内陣に搬入され元の位置に無事に安置されました。

修復を思い立ったのは昨年内陣床工事を行った際、ご本尊宮殿を庫裏に移動することがあったのですが、宮殿がぐらぐらし、このままでは大地震が来ると倒壊の恐れがあることに気づいたのがきっかけでした。

一刻も早く修復をしたかったのですが、資金がなく修復を行えませんでした。そんな時、道の上出身で埼玉県在住の古小路愛子様から二百万円という高額の永代経懇志を賜り、その永代経を原資に修復を行いました。

高額の永代経懇志を賜りました古小路愛子様には改めて

お礼を申し上げます。残りには親鸞聖人のお厨子の修復のみになりました。修復なった宮殿と、阿弥陀

さまの珍しい紫雲型光背を紹介いたします。



右上 阿弥陀さま宮殿  
下 蓮如上人宮殿  
左上 紫雲型（紫の雲が沸き立つような形）の光背

## 法語の世界

〈原 文〉

おなじき二十五日 兼譽 兼縁に對せられ仰せられ候。前々住上人 蓮如 御世を譲りあそばされて以来のことども 種々仰せられ候。御一身の御安心のとほり仰せられ 一念に弥陀をたのみまうして往生は一定と思し召され候。それらきて 前住上人 蓮如の御恩にて 今日までわれと思ふ心もち候はぬがうれしく候ふと仰せられ候。まことにありがたくも または驚きいりまうし候。われ 人 かやうに心得まうしてこそは 他力の信心決定申したるにてはあはれく候。いよいよ一大事の御ことに候。 『蓮如上人御一代記聞書 二百七十二』

〈現代語訳〉

大永五年一月二十五日 実如上人が弟の蓮淳さま 蓮悟さまに對して、蓮如上人が本願寺の住職の地位を譲られてからのことをいろいろお話になりました。そして、ご自身の安心のことをお述べになり、「弥陀を信じておまかせし、往生はたしかに定まると心得ている。それは蓮如上人のご教化のおかげであり、今日まで自分こそがと思う心を持たなかつたことがうれし」と仰せになりました。この仰せは本堂にありがたく、また、深く驚かされるものです。わたしも人々も、このように心得こそ、他力の信心がたしかに定まるといふことでありましよう。これは間違はなく本当に大切なことなのです。

### 念珠での正しい合掌の姿

最近、ご法事のご縁で浄土真宗本願寺派の作法どおりでない「念珠での合掌」を見ました。正しい作法を掲載します。



▲ 正しい合掌 念珠に両手を入れて掌を合わせる



▲ 間違った合掌 念珠に片手だけ入れて掌を合わせる